

水素燃料を地産地消

「ナミエナジー」完成 福島・浪江で開所式

水素タウン構想を進めている福島県浪江町に24日、25トントラックを活用した移動式水素ステーションに燃料電池車（F CV）向けの水素を供給する施設「ナミエナジー」が完成した。

開所式で吉田数博町長は「町内で製造された水素を地産地消の形で利用できるようになる。水素を活用したまちづくりに弾みがつく」と述べ、復興への貢献に期待した。

ナミエナジーは、県内のガス事業者が2017年に設立したふくしまハイドロサプライ（福島市）が約7000万円で整備した。近くの福島水素エネルギー研究フィールドで製造した水素を、東北で1台のみの移動式水素ステーションに積み込む。

ステーションは、福島市の「さいえねパーク」とナミエナジーの2カ所で、F CVに燃料の水素を充填する。



移動式水素ステーション（後方）に水素を供給する「ナミエナジー」の開所式＝浪江町